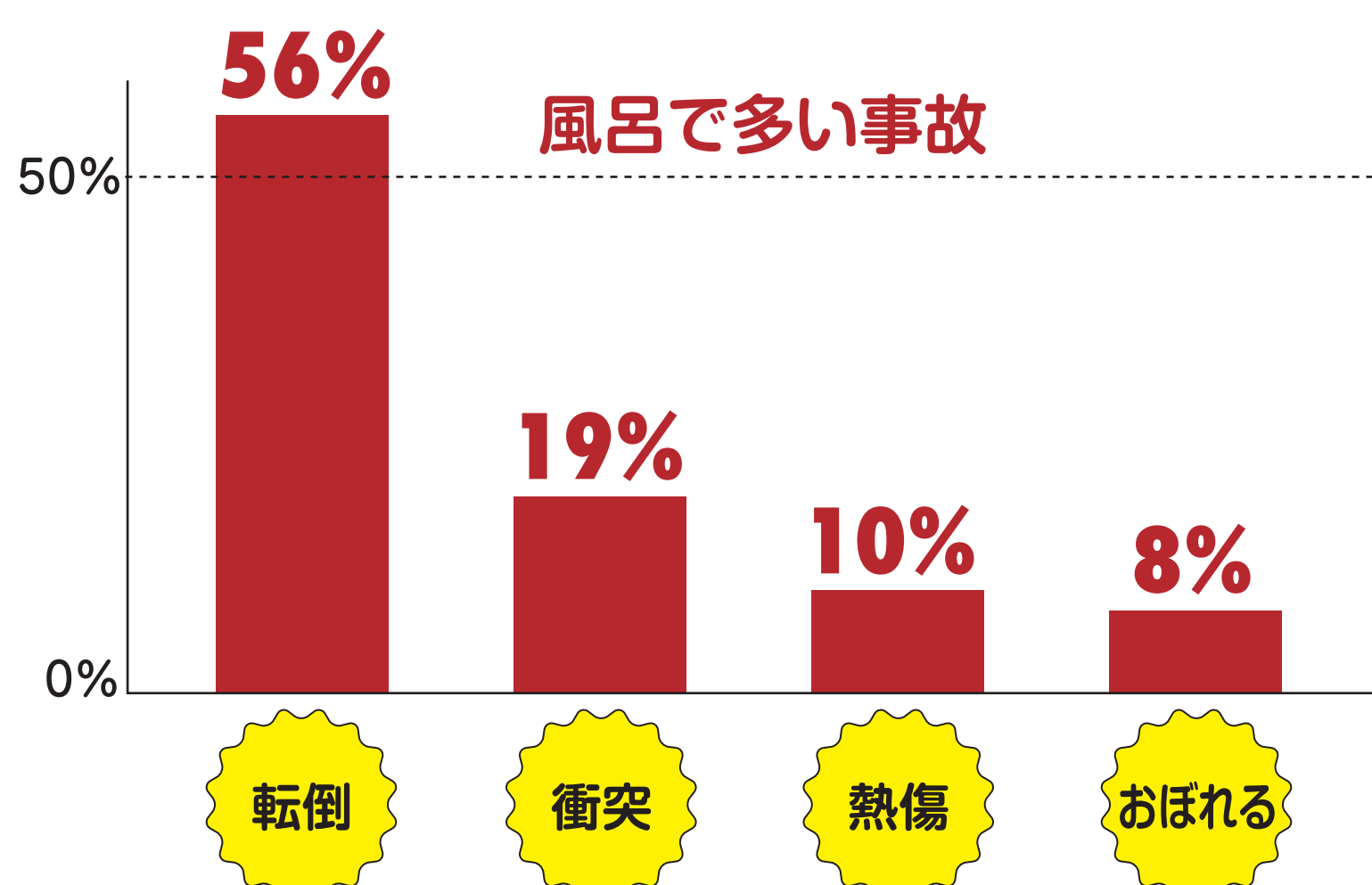


風呂

風呂場は浴槽での溺水が子どもの死亡事故に直結するという意味で、家の中でも一番危険な場所といえます。1～4歳児の不慮の事故による死亡の約2割が溺水によるものです。また、0～1歳児の溺水の多くは自宅の浴槽でおこっています。

「気づいたら浴槽に浮いていた・・・」といったことのないように。ほんの少しの間でも、風呂場に子どもを1人にしておくことは絶対にやめましょう。

よくおこる事故の種類



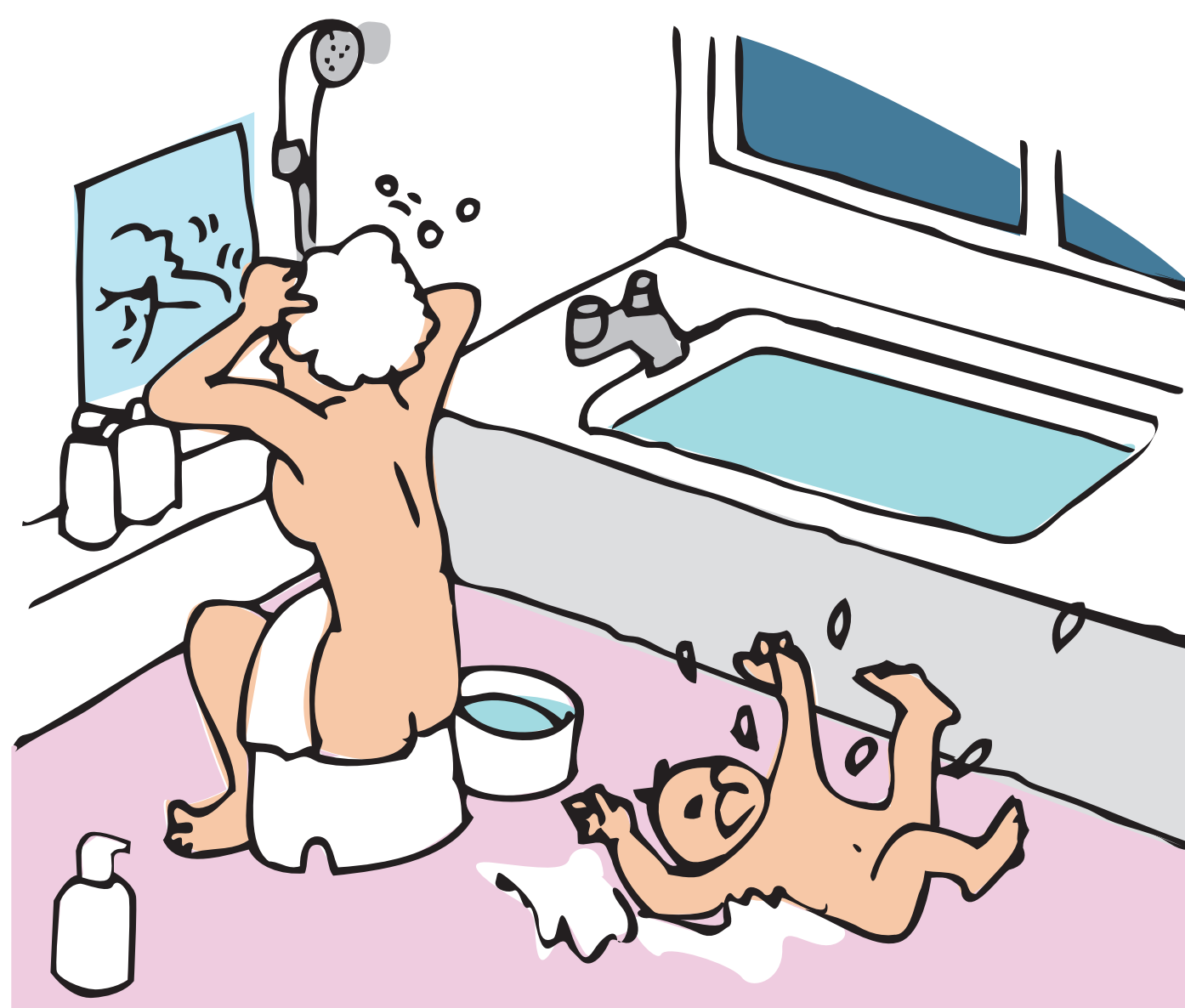
田中 哲郎 わが国の乳幼児事故(1999)より

残り湯をした風呂に1人で入りこんだ子どもが風呂桶を踏み台にして、船などのおもちゃを浮かべて遊んでいる時に、体のバランスをくずして転落した。わずか10cmの残り湯でも、のそき込んで転落した後、溺れる事故もおこっています。



■ 溺れるだけでなく

転倒・衝突・熱傷



転ぶ 石鹸やシャンプーですべりやすくなった洗い場で転倒。

火傷する
湯や熱い蛇口をさわってしまった。



おぼれる

お母さんが電話に出たすきに溺れた



事故を防ぐ工夫

- 1.風呂場の入り口に、子どもが1人で入っていかないように外鍵をする。
- 2.残り湯をしない。
- 3.子どもと一緒に風呂に入っている時は絶対に目を離さない。
- 4.転落防止に洗い場には、滑り止めマットを敷く。

寝室

生まれたばかりの赤ちゃんは、生後3か月くらいまではほとんどベビーベッドで過ごします。この時期、事故死亡の原因の多くは窒息による事故です。ベッドの柵を上げ下げする側の床の上には万一赤ちゃんが転落しても大きなけがをしないようにクッションマットやざぶとんを敷いておくと安心です。

よくおこる事故の種類

窒息

枕、枕カバー、ふとん、シーツ、紙オムツなどで口や鼻をふさいでしまい窒息する事故がおこっています。



転落

寝返りをうつようになるとベビーベッドやソファから転落する事故が多くなります。



事故を防ぐ工夫

1.タオルなどを顔の側に置かない

柔らかいふとんやベッドにうつ伏せに寝かせたり、掛けふとんを顔に深く掛け過ぎないようにしましょう。顔の周りのぬいぐるみやビニール袋、タオル、紙オムツもすぐに片付けましょう。



2.ベビーベッドの柵は必ず上げる

3か月を過ぎると赤ちゃんの動きは活発になります。転落しないように、ベビーベッドの柵は必ず最上段まで上げておいてください。少しそばを離れる時でも必ず最上段まで上げる習慣をつけましょう。

